2015年8月9日 第二主日礼拝

説教「神さまは私の岩」

サムエル記 第二　22章1-10節

【ダビデとサウル】

ダビデの生涯の前の半分はサウルから逃げるために費やされました。けれども、ついにサウルが倒れ、ダビデが救い出されるときが来ました。「【主】が、ダビデのすべての敵の手、特にサウルの手から彼を救い出された日に、ダビデはこの歌のことばを【主】に歌った。」(1) 救い出したのは神さま。神さまがダビデを救い出してくださいました。

神さまに働いていただくためには、神さまよりも先走らないこと。神さまがなさろうとすることを横取りしないで、神さまを信頼して、神さまにおゆだねすることです。ダビデには、何度もサウルのいのちを奪う絶好のチャンスがありましたが、ダビデは、サウルを殺しませんでした。神さまの手にサウルと自分の間の問題を委ねました。神さまがどこまでも愛であることを知っていたからでした。神さまの愛を知る人は、神さまを信頼します。神さまの愛に自分をゆだねることができるのです。

【主はわが巌】

「【主】はわが巌、わがとりで、わが救い主、わが身を避けるわが岩なる神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。私を暴虐から救う私の救い主、私の逃げ場」(2-3) と、ダビデは神さまを讃える歌を、神さまへの呼びかけから始めます。そのすべての呼び名に「私の」がつきます。ダビデにとって神さまは、「私の神さま」。ダビデを愛する、ダビデが愛する神さま。

このダビデの神さまがダビデを救ってくださいました。「この【主】を呼び求めると、私は、敵から救われる。」(4)　神さまはダビデをサウルから救われました。いのちを守っただけではなく、ダビデがサウルに手をかけることがないように、ダビデの心を守ってくださったのでした。神さまの勝利は完全な勝利。敵をなんとか殺すだけというようなギリギリの勝利ではなく、余裕をもって心を守って勝利させてくださいます。

【罪の力からの救い】

エペソ書に「罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし･･･キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました」(2:5-6) とあります。神さまは私たちを敵から救ってくださいます。敵というのは、サウルというような目に見える相手のことばかりではありません。私たちが愛し合って天国のような毎日を生きることを妨げるすべてのもの、それが私たちの敵です。罪の力もそうです。そして私たちの敵は、神さまの敵。神さまは私たちを敵から救ってくださいます。罪の力という敵からも救ってくださるのです。

【死の力からの救い】

「死の波は私を取り巻き、滅びの川は、私を恐れさせた」(5) とダビデの喜びの歌は続きます。イスラエルにとって水は、死と関係し、滅びを意味します。死を恐れて神さまに叫ぶダビデ。すると「主はその宮で私の声を聞かれ、私の叫びは、御耳に届いた」(7) のです。ダビデを愛する神さまが、ダビデの叫びを聞き逃すようなことは、決してありません。すると「主がお怒りに」(8) なります。ご自分とダビデを隔てようとする死の力に対して、神さまは怒り、死を滅ぼされるのです。

【天を押し曲げて】

驚くべきは、「主は、天を押し曲げて降りて来られた」(10) です。私たちにはうかがいしれない神さまの領域である天と、この世界である地、の境目を神さまは押し曲げられる。本来、閉ざされているはずの境目を、神さまはむりやりこじあけるようにして、来てくださるのです。それは、愛するため。ご自分をお与えになるためです。ダビデには、はっきりとは分かっていなかったはずですが、これはまさしく主イエスがこの世界に来てくださったときになさったこと。神である主イエスが、この世界に来て、十字架にかかり、よみがえってくださって、私たちを罪の力と死の力から救ってくださいました。このことを知る私たちは、なおいっそうの感謝をもって、ダビデの歌を歌うのです。